

2019-9 教育研究評議会議事概要

日時 令和2年1月15日（水）13:30～14:50
場所 事務局棟2階会議室
出席者 駒田学長
山本，緒方，尾西，梅川，伊藤（公），大高，富樫，野崎，橋本，西村，
鶴岡，松田，吉松，吉本，富本，伊佐地，安食，樹神，鶴原，片山，村田，
畑中，伊藤（智），奥村，神原，(代)小林，綾野
欠席者 藤田
陪席者 服部監事，山中監事，田中（工学部4年生）

◎ 前回議事概要の確認

学長から事前に照会した2019-8教育研究評議会議事概要(案)について、資料のとおり記録に留めたい旨の報告があり、了承された。

I. 審議事項

1. 中期計画の変更について

尾西理事から、「資料：審-1-1，1-2」に基づき、「別表 収容定員」の変更に係る中期計画の変更について文部科学省へ提出する旨の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

2. 三重大学における日本学術振興会特別研究員に関する規程の一部改正について

緒方理事から、「資料：審-2」に基づき、日本学術振興会外国人特別研究員の本学における位置づけを明確にすることに伴い、「三重大学における日本学術振興会特別研究員に関する規程」の一部改正を行う旨の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

3. 人事労務に関する規程等の改正について

企画総務部長から、「資料：審-3」に基づき、令和元年人事院勧告に伴う国家公務員の給与改定を受け、その内容について検討を行い、職員への影響、財務状況等を勘案して人事労務に関する規程等の改正を行うほか、本学の運用実態に応じた改正を行う旨の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

4. その他

なし

II. 役員会報告

1. 第19・20回役員会について

学長から、令和元年度第19・20回役員会について、「資料：役-1」に基づき、報告があった。

III. その他報告事項

1. 令和元年度理事・副学長体制について

学長から、「資料：報-1」に基づき、令和2年1月1日からの理事・副学長・学長補佐体制についての報告があった。

2. 令和元年度業務執行状況（第3四半期）について

各理事・副学長から、「資料：報-2-1，2-2」に基づき、令和元年度業務執行状況（第3四半期）について、「主な取組・成果」「課題・対応方針」「中期計画の数値目標に係る実績」を中心とした報告があった。

◇主な意見等

○危機管理について、安否確認システムへの登録状況は、本来は100%にするべきものではないか。今発災すれば、学生も教職員も、最後の一人まで安否確認をしなくてはならず、家族も大学に期待をしている。それに応えようという安否確認システムであると思う。その様な認識を持って、根本的な策を考えなくてはならないのではないか。

→真摯に検討する必要があると思っている。登録率の目標は70%であり、年々上がっているが、70%で良いはずはない。ただ、探索の方法は、マニュアルで探索するののも一つの方法であり、全てを安否確認システムで確認するということではないと考える。登録状況が上がらない点については、特に病院では、新規採用者がなかなか登録をしていない現状があり、将来的にはスマートフォンに入れる計画もあるが、すぐに100%にすることは難しく、今後防災室と協議しながら、進めていきたいと思っている。

3. 令和3年度（令和2年度実施）三重大学入学者選抜について

山本理事から、「資料：報－3、参考資料」に基づき、令和3年度（令和2年度実施）三重大学入学者選抜について、12月18日開催の教育研究評議会で承認された公表の内容について、臨時入試委員会にて審議及び了承のうえ、12月25日に公表を行った旨の報告があった。

◇主な意見等

○文部科学省には、今後も検討を行っていただきたいが、前期日程及び後期日程の個別学力試験をいかに良いものにするかは、各大学の責任である。引き続き入試委員会を中心に検討をしていただきたい。各部局等の先生方もご協力いただきたい。

4. COC+に係る報告

富樫副学長から、「資料：報－4」に基づき、令和元年度第7回地域創発部門会議における協議事項等についての報告があった。

5. 三重大学リサーチセンター認定期間の更新について

学術情報部長から、「資料：報－5」に基づき、リサーチセンターの認定期間の更新についての報告があった。

6. 電子ジャーナル契約額の抑制策について

梅川理事から、「資料：報－6」に基づき、ここ数年における電子ジャーナルにかかる契約額の増加について説明があり、次いで情報・図書館課長から、契約額抑制のため、大学全体の間接経費により、2020年度にWiley Online Booksの有料トライアルを実施することとした旨の報告があった。

◇主な意見等

○間接経費は、現在、大学全体には半分の比率が配分されているが、その比率は変えずに、大学全体の間接経費から拠出するということが。

→比率は変えず、大学全体の間接経費から拠出する。

○部局負担額の見込みが、現状では2年間で2倍以上になる想定である。一部節約できたとしても、部局の負担がかなり増えるが、やはりこうなる見込みか。何か対策はないか。

→契約額は、毎年全国の国公私立大学の図書館職員が集まるコンソーシアムにおいて、出版社との間の契約交渉で決めている。交渉次第で上下するため、2021年度以降については決定ではない。本学に限らず、他大学においても電子ジャーナルの契約額はかなり負担になってきており、それも含めて、出版社と話し合いをしている状況である。

○昨年度をベースにしても、今年度は昨年度の1.5倍かかり、来年度はさらに1.5倍になる見込みである。是非検討をしていただきたい。

7. RI医学部実験施設とRI生物資源学部実験施設の統合について

緒方理事から、「資料：報－7」に基づき、RI医学部実験施設とRI生物資源学部実験施設の統合についての報告があった。統合は、RI生物資源学部実験施設の老朽化に伴うものであり、RI実験施設としての合法性を保つための改修工事を行うには、かなりの予算措置が必要になる

こと及び利用者が減少していることから行うものである旨の説明があった。なお、RI生物資源学部実験施設を廃止する場合も予算措置が必要であり、統合は予算措置を待って行う予定である旨の説明があった。

◇主な意見等

○RI実験施設は、以前から稼働率が低く、統合の計画が提案されており、数年前のRI医学部実験施設の改修工事では、統合を見据えた工事を行っている。問題としては、建物が平屋であるため津波が来る恐れがあるが、すぐに解決策がないことが挙げられる。またRI生物資源学部実験施設には、半減期が長いものも多く、除染の際に問題になる可能性がある。PET用の機材については、従来は無料になっていたが、メンテナンスの費用がかなりかかるため、きちんと有料にして、広く利用される様にしていく必要がある。予算に対してコストをどう改善していくかが今後課題になると思われる。

○今後引き続き検討いただき、またご報告願いたい。

8. その他

なし

以 上